

科目名		数学Ⅰ		単位数	3	履修区分	必履修
対象の部		午前部	午後部	使用教科書 教材	新 高校の数学Ⅰ(数研出版)		
履修の条件							
先生からの アドバイス		午前部および午後部の生徒は数学Ⅰ(3単位)を1年次で履修します。高校生としての数学の基本的な内容を学ぶ科目です。習熟度別のクラスで授業を行います。必履修科目なので、履修が認定されないと卒業できません。					
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度			
観点の内容		数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表す、グラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価方法	学習状況の観察	△	△	△			
	ノート・プリント	—	—	◎			
	発表・グループ学習	○	◎	○			
	単元テスト・定期考査	◎	○	—			
学期	月	学習内容(単元名)	評価規 準				
前期	4	計算の基本 単項式と多項式 多項式の加法と減法	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。		
	5	多項式の乗法 展開の公式 因数分解 根号を含む式の計算					
	6	実数 定期考査 ①					
	7	1次方程式 不等式					
	9	関数 1次関数のグラフ 2次関数のグラフ(1)					
	10	2次関数のグラフ(2) 2次関数の最大値、最小値 グラフと2次方程式 定期考査 ②					
後期	11	直角三角形 三角比 三角比の利用	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。		
	12	三角比の相互関係 正弦定理					
	1	余弦定理 三角形の面積 定期考査 ③					
	2	命題 命題と集合 必要条件と十分条件					
	3	データの整理 データの代表値 データの散らばり					

科目名		数学Ⅰ		単位数	2	履修区分	必履修	
対象の部			夜間部	使用教科書 教材		新 高校の数学Ⅰ(数研出版)		
履修の条件								
先生からのアドバイス		夜間部の生徒は数学Ⅰ(4単位)を1年次と2年次にわけて2単位ずつ履修します。高校生としての数学の基本的な内容を学ぶ科目です。数学Ⅰ1は1年次で開講されます。必履修科目なので、2年次で開講される数学Ⅰ2と併せて履修が認定されないと卒業できません。						
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度				
観点の内容		数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表す、グラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価方法	学習状況の観察	△	△	△				
	ノート・プリント	—	—	◎				
	発表・グループ学習	○	◎	○				
	単元テスト・定期考査	◎	○	—				
学期	学習内容(単元名)	評価規準						
前期	4	計算の基本 単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。				
	5							単項式と多項式 多項式の加法と減法
	6							多項式の乗法 展開
	7							定期考査 ① 因数分解
	9							根号を含む式の計算
	10							実数 1次方程式 不等式 定期考査 ② 不等式の解
11	2次関数							
12	1次関数のグラフ 2次関数のグラフ							
1	定期考査 ③ 2次関数の最大最小							
2	グラフと2次方程式							
3								

科目名		数学Ⅰ2		単位数	2	履修区分	必履修	
対象の部			夜間部	使用教科書 教材		新 高校の数学Ⅰ(数研出版)		
履修の条件								
先生からの アドバイス		夜間部の生徒は数学Ⅰ(4単位)を1年次と2年次にわけて2単位ずつ履修します。高校生としての数学の基本的な内容を学ぶ科目です。数学Ⅰ2は2年次で開講されます。必履修科目なので、1年次で開講される数学Ⅰ1と併せて履修が認定されないと卒業できません。						
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度				
観点の内容		数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表式、グラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価方法	学習状況の観察	△	△	△				
	ノート・プリント	—	—	◎				
	発表・グループ学習	○	◎	○				
	単元テスト・定期考査	◎	○	—				
学期	学習内容(単元名)	評 価 規 準						
前 期	4	2次関数 単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。				
	5							
	6							
	定期考査 ①							
	7							
	9				三角形への応用			
後 期	10	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。				
	定期考査 ②							
	11				データの分析			
	12							
	1							
	定期考査 ③							
2								
3								

科目名		数学Ⅱ		単位数	4	履修区分	自由選択
対象の部		午前部	午後部		使用教科書 教材	新 高校の数学Ⅱ(数研出版)	
履修の条件		数学Ⅰの履修が認定された後に履修すること					
先生からの アドバイス		数学Ⅰよりも発展的な内容を学習します。数学Ⅰの知識を必要とします。理系の大学や専門学校への進学を目指す生徒は、履修すると良いでしょう。また、理系の四年制大学に進学を希望する生徒は、2年次での履修をお勧めします。					
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度			
観点の内容		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、事象を数学的に考察したり、統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価 方法	学習状況の観察	△	△	△			
	ノート・プリント	—	—	◎			
	発表・グループ学習	○	◎	○			
	単元テスト・定期考査	◎	○	—			
学期	月	学習内容(単元名)	評価規準				
前 期	4	第1章 式と証明 制式の乗法・除法	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。		
	5	高次方程式 複素数と2次方程式					
	6	第2章 図形と方程式 直線と円 定期考査 ①					
	7	点と直線 円の方程式					
	9	軌跡と領域 第3章 指数関数 指数関数 指数の拡張 対数関数					
	10	定期考査 ②					
後 期	11	第4章 三角関数 角の拡張	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。		
	12	三角関数					
	1	第5章 微分・積分 微分の考え 定期考査 ③					
	2	積分の考え					
	3						

科目名		数学Ⅲ		単位数	4	履修区分	自由選択
対象の部		午前部			使用教科書 教材	最新 数学Ⅲ(数研出版)	
履修の条件		数学Ⅰ、Ⅱの履修が認定された後に履修すること					
先生からの アドバイス		数学Ⅰ、Ⅱ、A、Bの知識を必要とするので、あらかじめ数学Ⅰ、Ⅱ、A、Bを履修しておきましょう。また、数学Cを同時に履修することが望ましいです。将来、数学が必要な専門分野に進もうとする生徒や、数学に強い興味・関心をもって更に深く学習しようとする生徒向けの科目です。					
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度			
観 点 の 内 容		極限、微分法及び積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価 方法	学習状況の観察	△	△	△			
	ノート・プリント	—	—	◎			
	発表・グループ学習	○	◎	○			
	単元テスト・定期考査	◎	○	—			
学期	学習内容(単元名)	評 価 規 準					
前 期	4 第1章 関数 単元テスト	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。			
	5 第2章 極限						
	6 定期考査 ①						
	7 単元テスト						
	9 第3章 微分法とその応用						
	10 定期考査 ②						
後 期	11 単元テスト	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。			
	12 第4章 積分法とその応用						
	1 定期考査 ③						
	2						
	3						

科目名		数学A			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部		午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	新 高校の数学A (数研出版)		
履修の条件		数学Ⅰの履修と並行して、あるいは数学Ⅰの履修が認定された後に履修すること						
先生からの アドバイス		標準的な内容を学習します。文章題（文章の形式になっている問題）が多いので、文章を読み取る力が必要です。中学校までに学習した「場合の数」「確率」「図形」「方程式」および数学Ⅰの知識があると内容が理解しやすいでしょう。大学や専門学校への進学を目指している生徒は、1年次または2年次に履修すると良いでしょう。なお、理系の四年制大学に進学を希望する生徒は、1年次で履修しておくことをお勧めします。						
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度				
観 点 の 内 容		図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間との関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価 方法	学習状況の観察	△	△	△				
	ノート・プリント	—	—	◎				
	発表・グループ学習	○	◎	○				
	単元テスト・定期考査	◎	○	—				
学期	学習内容（単元名）	評 価 規 準						
前 期	4 第1章 場合の数と確率 集合	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。				
	5 順列							
	6 組合せ 組合せ							
	定期考査 ①							
	7 確率							
	9 確率							
後 期	10 第2章 図形の性質 図形の基本	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。				
	定期考査 ②							
	11 三角形 円							
	12 円							
	1 空間図形							
	定期考査 ③							
期	2 第3章 数学と人間の活動 約数と倍数 ユークリッドの互除法	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。				
	3 2進法 点の位置の表し方 数学とゲーム・パズル							

科目名		数学B		単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部		午前部	午後部		使用教科書 教材	新 高校の数学B (数研出版)	
履修の条件		数学Ⅰの履修が認定された後に履修すること					
先生からの アドバイス		数学Ⅰよりも発展的な内容を学習します。数学Ⅰの知識を必要とします。理系の大学や専門学校への進学を目指す生徒は、履修すると良いでしょう。3年次で数学Ⅲを履修したい場合には、2年次で数学Bを履修することをお勧めします。					
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度			
観点の内容		数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価 方法	学習状況の観察	△	△	△			
	ノート・プリント	—	—	◎			
	発表・グループ学習	○	◎	○			
	単元テスト・定期考査	◎	○	—			
学期	月	学習内容(単元名)	評価規準				
前 期	4	第1節 数列とその輪 等差数列	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。		
	5	等比数列 和の記号Σ					
	6	階差数列					
		定期考査 ①					
	7	漸化式と一般項					
	9	数学的帰納法					
後 期	10	確率 確率変数と確率分布	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。		
		定期考査 ②					
	11	二項分布 確率密度関数					
	12	正規分布					
	1	二項分布と正規分布 母集団と標本					
		定期考査 ③					
	2						
	3						

科目名		数学C		単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部		午前部			使用教科書 教材	最新 数学C(数研出版)	
履修の条件		数学Iの履修が認定された後に履修すること					
先生からのアドバイス		数学I, IIの知識を必要とするので、あらかじめ数学I, IIを履修しておきましょう。将来、数学が必要な専門分野に進もうとする生徒や、数学に強い興味・関心をもって更に深く学習しようとする生徒向けの科目です。					
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度			
観点の内容		ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し, 演算法則やその図形的な意味を考察する力, 図形や図形の構造に着目し, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価方法	学習状況の観察	△	△	△			
	ノート・プリント	—	—	◎			
	発表・グループ学習	○	◎	○			
	単元テスト・定期考査	◎	○	—			
学期	月	学習内容(単元名)	評価規準				
前期	4	第1章 ベクトル	<p>単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。</p> <p>A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。</p>	<p>計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。</p> <p>A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。</p>	<p>与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。</p> <p>A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。</p>		
	5						
	6						
		定期考査 ①					
	7						
	9	単元テスト					
後期	10	第2章 複素数平面	<p>単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。</p> <p>A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。</p>	<p>計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。</p> <p>A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。</p>	<p>与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。</p> <p>A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。</p>		
		定期考査 ②					
	11	単元テスト					
	12	第3章 式と曲線					
	1						
		定期考査 ③					
期	2						
	3						

科目名		数学基礎			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部		午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	Step By Step 新 高校の数学 I (数研出版)		
履修の条件								
先生からの アドバイス		数と式について、数学 I までに学習した様々な内容を学び直す科目です。計算が苦手であったり高校までの数学の内容を復習したい生徒は、履修すると良いでしょう。						
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度				
観点の内容		基本的な四則演算、文字と式、展開、因数分解、根号及び方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を適切に変形したりする力、式とグラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決する力を身に着ける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価方法	学習状況の観察	△	△	△				
	ノート・プリント	—	—	◎				
	発表・グループ学習	○	◎	○				
	単元テスト・定期考査	◎	○	—				
学期	学習内容(単元名)	評価規 準						
前期	4	正負の数のたし算、ひき算 <small>正負の数のかけ算、わり算、累乗の計算</small> 分数の性質と約分、通分 <small>分数のたし算、ひき算</small> 分数のかけ算、わり算 計算の順序 <small>文字を使った式、文字式の表し方</small> 単項式と多項式の次数 定期考査 ① 多項式の加法、減法	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。			
	5							
	6							
	7							
	9							
	10					式の展開 単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。
11	定期考査 ② 因数分解	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。				
12	平方根の性質 根号を含む計算 一次方程式	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。				
後期	1	定期考査 ③ 連立方程式 二次方程式	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。			
	2							
	3							

科目名		単位数	履修区分			
対象の部		使用教科書 教材				
履修の条件						
先生からの アドバイス						
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度		
観点の内容						
評価 方法	学習状況の観察	△	△	△		
	ノート・プリント	—	—	◎		
	発表・グループ学習	○	◎	○		
	単元テスト・定期考査	◎	○	—		
学期	月	学習内容(単元名)	評	価	規	準
前 期	4	単元ごとの定義、定理、 公式を理解することに努 め、必要に応じて利用す ることができる。 A・B・Cの評価段階基 準に関しては教科担当者か ら授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を 省略せずに論述することに 努める。また、発表やグ ループ学習では他者が理解 しやすいように説明や補足 ができる。 A・B・Cの評価段階基 準に関しては教科担当者か ら授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的 な学習に取り組むことがで きる。また、発表やグループ 学習に積極的に参加するこ とができる。 A・B・Cの評価段階基準に 関しては教科担当者から授 業を通じて説明する。		
	5					
	6					
	定期考査 ①					
	7					
9						
後 期	10	単元ごとの定義、定理、 公式を理解することに努 め、必要に応じて利用す ることができる。 A・B・Cの評価段階基 準に関しては教科担当者か ら授業を通じて説明する	計算や証明問題の過程を 省略せずに論述することに 努める。また、発表やグ ループ学習では他者が理解 しやすいように説明や補足 ができる。 A・B・Cの評価段階基 準に関しては教科担当者か ら授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的 な学習に取り組むことがで きる。また、発表やグループ 学習に積極的に参加するこ とができる。 A・B・Cの評価段階基準に 関しては教科担当者から授 業を通じて説明する。		
	定期考査 ②					
	11					
	12					
	1					
	定期考査 ③					
2						
3						

科目名		数学活用		単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部		午前部	午後部		使用教科書 教材	本校作成テキスト	
履修の条件							
先生からのアドバイス		数学Ⅰまでに学習した基本的な内容を学習しますので、卒業前に総復習しましょう。割合や単位の計算も行うので入社試験等にも対応しています。就職を希望する生徒は卒業見込み年次に履修することが望ましいです。					
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度			
観点の内容		基本的な四則演算、文字と式、単位と割合及び資料の活用についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を適切に変形したりする力、式とグラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決する力を身に着ける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価方法	学習状況の観察	△	△	△			
	ノート・プリント	—	—	◎			
	発表・グループ学習	○	◎	○			
	単元テスト・定期考査	◎	○	—			
学期	月	学習内容(単元名)	評価規準				
前期	4	いくつかの数の計算 倍数、約数	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。		
	5	分数の計算 正負の数					
	6	いくつかの数の計算 計算の工夫					
		定期考査 ①					
	7	文字と式					
	9	単位 割合					
後期	10	平方根	単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。 A・B・Cの評価段階基準に関しては教科担当者から授業を通じて説明する。		
		定期考査 ②					
	11	資料の活用					
	12						
	1						
		定期考査 ③					
	2						
	3						

科目名		単位数	履修区分			
対象の部		使用教科書 教材				
履修の条件						
先生からの アドバイス						
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度		
観点の内容						
評価 方法	学習状況の観察	△	△	△		
	ノート・プリント	—	—	◎		
	発表・グループ学習	○	◎	○		
	単元テスト・定期考査	◎	○	—		
学期	月	学習内容(単元名)	評	価	規	準
前 期	4	単元ごとの定義、定理、 公式を理解することに努 め、必要に応じて利用す ることができる。 A・B・Cの評価段階基 準に関しては教科担当者か ら授業を通じて説明する。	計算や証明問題の過程を 省略せずに論述することに 努める。また、発表やグ ループ学習では他者が理解 しやすいように説明や補足 ができる。 A・B・Cの評価段階基 準に関しては教科担当者か ら授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的 な学習に取り組むことがで きる。また、発表やグループ 学習に積極的に参加するこ とができる。 A・B・Cの評価段階基準に 関しては教科担当者から授 業を通じて説明する。		
	5					
	6					
	定期考査 ①					
	7					
9						
後 期	10	単元ごとの定義、定理、 公式を理解することに努 め、必要に応じて利用す ることができる。 A・B・Cの評価段階基 準に関しては教科担当者か ら授業を通じて説明する	計算や証明問題の過程を 省略せずに論述することに 努める。また、発表やグ ループ学習では他者が理解 しやすいように説明や補足 ができる。 A・B・Cの評価段階基 準に関しては教科担当者か ら授業を通じて説明する。	与えられた課題や、自主的 な学習に取り組むことがで きる。また、発表やグループ 学習に積極的に参加するこ とができる。 A・B・Cの評価段階基準に 関しては教科担当者から授 業を通じて説明する。		
	定期考査 ②					
	11					
	12					
	1					
	定期考査 ③					
2						
3						